

土 橋 遺 跡

畑地帯総合整備事業（後川内 2 期地区）における
埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

2023 年 3 月

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序 文

本書は、「県営畑地帯総合整備事業（担手育成）」に伴い、宮崎県西諸県農林振興局から委託を受け、令和２年度に高原町教育委員会が実施した土橋遺跡発掘調査の調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史に溢れた町です。特に「高原」という地名は、「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、また若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町教育委員会では、畑地帯総合整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成２７年度から実施しており、この土橋遺跡では、縄文時代から古墳時代を中心とした遺物が出土しました。なお、町内で初めて縄文時代草創期と思われる土器が出土しました。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりますが、この発掘調査及び整理作業にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました、土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

令和５年３月

高原町教育委員会
教育長 西田 次良

例 言

- 1 本報告書は、令和2年度に実施した後川内地区における畑地帯総合整備事業（担手育成）に伴う土橋遺跡発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡は宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字土橋に所在する。
- 3 当遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業、執筆については宮崎県西諸県農林振興局 農村整備課の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となって実施した。
- 4 当遺跡の発掘調査については、宮崎県教育委員会文化財課の指導・助言を受けて、高原町教育委員会教育総務課社会教育係の玉谷鮎美が中心となって実施した。
- 5 現場における遺構実測は調査員、調査補助員及び作業員が行った。なお、遺構実測図の一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 6 遺物の整理、実測図作成、トレースについては、調査員、調査補助員及び整理作業員が整理作業室にて行った。遺物の実測図作成及びトレースの一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 7 本報告書で使用した遺構、遺物の写真撮影は玉谷が行い、空中写真については有限会社 旭冷機に委託した。
- 8 本報告書で使用した自然科学分析は株式会社古環境研究センターに委託し、その結果については第3章で掲載した。分析結果中に記載されている遺構名称については、調査時の仮番号であり、対照については下記の通りである。
遺構 No.2…SC1 遺構 No.8…試料出土1 遺構 No.9…試料出土2 遺構 No.20…SC5
遺構 No.21…SZ1 遺構 No.31…SC12 遺構 No.32…SC13
- 9 本報告書で用いた標高は海拔高であり、方位は真北・磁北であり、図面ごとに図示した。
- 10 本報告書で使用した遺構記号は以下の通りである。また、SC9、11は欠番である。
SC…土坑 SZ…その他遺構
- 11 本報告書での土器観察表上での胎土における鉍物含有量については数値で表現し、1＝ごく微量、2＝微量、3＝少量、4＝多量とした。
- 12 発掘調査に伴う出土遺物・実測図面については、高原町教育委員会では保管している。
- 13 発掘調査および報告書作成においては下記の方々に御指導、御助言いただきました。記して御礼申し上げます。
秋成雅博 今塩屋毅行 東 憲章 吉本正典
(50音順)

目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺跡の立地と環境	3
第4節 調査の概要及び経過	7
第5節 調査区設定	7
第6節 遺跡の層序	9
第2章 調査の成果	12
第1節 アカホヤ火山灰下位の調査	12
1 縄文時代草創期の遺物	12
2 縄文時代早期の遺物	15
第2節 アカホヤ火山灰上位の調査	19
1 縄文時代中～晩期の遺構	19
2 縄文時代中～晩期の遺物	30
3 古墳時代～古代の遺構	51
4 弥生・古墳時代～古代の遺物	63
第3章 自然科学分析	67
第1節 土橋遺跡における自然科学分析	67
第2節 土橋遺跡における自然科学分析	83
第3節 土橋遺跡における自然科学分析	97
第4章 総括	109

図目次

第1図 周辺遺跡分布図	4
第2図 調査地位置図	7
第3図 グリッド配置図	8
第4図 調査区土層断面図①	10
第5図 調査区土層断面図②	11
第6図 縄文時代草創期土器出土分布図	12
第7図 縄文時代草創期出土土器実測図	13
第8図 縄文時代早期土器出土分布及び接合状況	15
第9図 縄文時代早期包含層出土土器実測図	16
第10図 縄文時代早期包含層出土石器実測図	17
第11図 縄文時代中～晩期遺構配置図	20
第12図 縄文時代中～晩期検出 SC 実測図①	21
第13図 縄文時代中～晩期検出 SC 実測図②及び遺構内出土遺物実測図	22
第14図 縄文時代中～晩期検出 SZ 実測図①及び遺構内出土遺物実測図	23
第15図 縄文時代中～晩期検出 SZ 実測図②及び接合関係	24
第16図 SZ3 内出土遺物実測図①	25

第 17 図	SZ3 内出土遺物実測図②	26
第 18 図	SZ3 内出土接合資料実測図①	27
第 19 図	SZ3 内出土接合資料実測図②	28
第 20 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図①	30
第 21 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図②	31
第 22 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図③	32
第 23 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図④	33
第 24 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑤	35
第 25 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑥	36
第 26 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑦	38
第 27 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑧	39
第 28 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑨	40
第 29 図	縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑩	41
第 30 図	縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図①	42
第 31 図	縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図②	43
第 32 図	縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図③	44
第 33 図	縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図④	45
第 34 図	縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図⑤	46
第 35 図	古墳時代～古代遺構配置図	52
第 36 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図①及び遺構内出土遺物実測図	53
第 37 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図②	54
第 38 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図③	55
第 39 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図④	56
第 40 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図⑤	57
第 41 図	古墳時代～古代検出 SC 実測図⑥	58
第 42 図	古墳時代～古代検出 SZ 実測図①及び遺構内出土遺物実測図	59
第 43 図	古墳時代～古代検出 SZ 実測図②及び遺構内出土遺物実測図	60
第 44 図	古墳時代～古代検出 SZ 実測図③及び遺構内出土遺物実測図	61
第 45 図	弥生・古墳時代～古代包含層出土土器実測図①	63
第 46 図	古墳時代～古代包含層出土土器実測図②	64
第 47 図	古墳時代～古代包含層出土土器実測図③	65

表目次

第1表	アカホヤ火山灰下位遺構内出土土器観察表	14
第2表	縄文時代早期出土土器観察表	18
第3表	縄文時代早期出土石器観察表	18
第4表	縄文時代中～晩期検出遺構内出土土器観察表	29
第5表	縄文時代中～晩期検出遺構内出土石器観察表	29
第6表	縄文時代中～晩期包含層出土土器観察表	47
第7表	縄文時代中～晩期包含層出土石器観察表	50
第8表	古墳時代～古代検出遺構内出土土器観察表	62
第9表	古墳時代～古代検出遺構内出土石器観察表	62
第10表	弥生・古墳時代～古代包含層出土土器観察表	66

図版目次

図版1	調査区空中写真	111
図版2	土層写真及び調査状況	112
図版3	縄文時代草創期・早期包含層出土遺物写真	113
図版4	アカホヤ火山灰上位層検出遺構写真①	114
図版5	アカホヤ火山灰上位層検出遺構写真②	115
図版6	縄文時代中～晩期遺構内出土遺物写真①	116
図版7	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真①	117
図版8	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真②	118
図版9	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真③	119
図版10	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真④	120
図版11	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真⑤	121
図版12	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真⑥	122
図版13	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真⑦	123
図版14	縄文時代中～晩期包含層出土土器写真⑧	124
図版15	縄文時代中～晩期包含層出土石器写真①	125
図版16	古墳時代～古代検出遺構内出土遺物写真①	126
図版17	弥生・古墳時代～古代包含層出土土器写真①	127
図版18	弥生・古墳時代～古代包含層出土土器写真②	128
図版19	弥生・古墳時代～古代包含層出土土器写真③	129

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡高原町大字後川内では、平成25年度に後川内2期地区土橋団地畑地帯総合整備(担手支援)事業が採択された。工事に伴い宮崎県文化財課は宮崎県西諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた。県文化財課が一带の確認調査を実施したところ、事業実施計画によって切土となる範囲で遺跡が残存しており、発掘調査が必要であることが分かった。

その結果を受け、西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、高原町農政畜産課、高原町教育委員会で協議を行い、圃場整備事業実施計画によって削平される土橋遺跡の約2,800㎡について、発掘調査を実施することとなった。調査期間は、令和2年6月2日から令和3年3月15日にかけてである。遺物包含層は2面残存しており、調査延べ面積は5,166㎡であった。

第2節 調査組織

調査組織については下記の通りである。

令和2年度

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 末永恵治

教育総務課 課長補佐兼社会教育係長 江田雅宏

社会教育係 主査 玉谷鮎美(庶務担当)

社会教育係 主任主事 中別府宏貴(庶務担当)

社会教育係 主事 末山香織(庶務担当)

調査担当者 社会教育係 主査 玉谷鮎美

調査補助員 田中祐紀 福田 稔

発掘作業員 阿部慶太郎 有水系み子 安藤 護 飯田千代子 池崎良夫 池田信子

入木松男 内村絹代 大田滝子 岡崎順子 岡原 弘 奥 喜代司

勝吉末雄 上村勝雄 上村恭子 久徳利雄 窪田貴代子 黒木和美

佐多ふみ子 下村富貴子 下村順一 正入木政喜 關田克己 瀬戸口長経

竹之下民子 平良 廣 田崎広海 谷山龍人 寺師時信 泊 かよ子

永田輝昭 橋口廣海 福田正子 眞方幸雄 松本タケ子 丸山修平

安岡健二 柳 桂子 山田町子 山室つゆ子 湯舟玲子 吉村 繁

令和3年度(整理作業)

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 末永恵治

教育総務課 文化財係長 山下浩樹

文化財係 主査 玉谷鮎美(庶務担当)

調査担当者 文化財係 主査 玉谷鮎美

整理作業員 荒殿ミユキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 矢野秀城

令和4年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 中別府和也

教育総務課 文化財係長 山下浩樹

調査担当者 文化財係 主査 玉谷鮎美

調査補助員 福田 稔

整理作業員 荒殿ミユキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 矢野秀城

調査指導 甲斐貴充（宮崎県文化財課）

谷口武範（宮崎県文化財課）

東 憲章（宮崎県埋蔵文化財センター）

調査協力 事業側 宮崎県西諸県郡農林振興局

農村整備課 農村整備担当 主査 蛭原稔文

高原町 農畜産振興課

課長 田中博幸

農村整備係長 田中伸一郎

農村整備係 主査 下村健一（令和2年度）

主査 東 一樹（令和3・4年度）

地元協力 中嶋満秋 清水正明

山下一雄 大瀨一文

中嶋秀一 温水正二

温水時義 温水敏浩 （順不同、敬称略）

第3節 遺跡の立地と環境

1 高原町及び遺跡の地理的環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約18km、南北約10kmと東西に長く、面積は85.39km²であり、韓国岳（標高1,700m）、新燃岳（1,421m）中岳（1,332m）、高千穂峰（1,574m）等を中心とする霧島火山群の東麓にある。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約30,000年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（始良カルデラ）から噴出した火山灰で「始良丹沢（AT）火山灰」「始良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、高原町内での堆積は厚いところでは約30mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のスネローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のスネローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷4～6テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

遺跡周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、標高は約161～173mである。遺跡の北側には炭床川が北東から南東に流れ、南側は谷状地形になっている。

遺跡周辺には多くの遺跡が存在しており、井ノ原遺跡、川路山遺跡、川除遺跡、楠木塚遺跡、立切地下式横穴墓群で発掘調査が行われた。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、古代の畝状遺構等が見つかっている。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟B式土器が出土している。近年調査された井ノ原遺跡、川路山遺跡、楠木塚遺跡では、縄文時代早期の遺物が中心に出土しており、集石遺構等が確認された。

2 高原町及び遺跡の歴史的環境

高原町は、古くから天孫降臨の地、神武天皇御降誕の地として認識されている。高千穂の峰の山頂には「天の逆鉾」が建てられており、高原町大字蒲牟田字祓川にある霧島東神社の社宝となっている。「天の逆鉾」が立てられたのは江戸時代頃と言われているが、詳細は分かっていない。また『日本書紀』にある神武天皇の幼名「狭野尊」が高原町狭野地区を指しているとされ、その他「血捨ノ木」「鳥井原」といった地名も残されている。また高原町は霊峰高千穂の峰の麓にあることから、宗教的に発展している地域であった。平安時代の僧侶性空により修行場としての基礎が作られたという伝承を持ち、中世には島津氏、伊東氏による宗教施設の奪い合いや、中世における島津氏の「高原城攻め」の際には高原町に現存する政策決定手法の「御鬪」がおこなわれるなど、宗教的な職免で重要視されることが多かった。特に、島津氏による九州制覇の過程では、その支配方法等を霧島山の神意を問う記述がみられる。中世から近世にかけては、「霧島六所権現」と呼ばれる、6つの寺社が大きな勢力を持つようになる。このうち、高原町には霧島東御在所両所権現社（現霧島東神社）、狭野大権現社（現狭野神社）の他、霧島山中央六所権現社（現霧島峯神社）の別当寺である瀬田尾権現社跡の計3寺社がある。

【旧石器時代】

高原町内において、現在までのところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。高原町内では韓国岳から約16,000年前に噴出したと推定されている霧島小林軽石が約1m堆積している地域もある。平成29年度から令和元年度にかけて調査された井ノ原遺跡では、トレンチ調査で小林軽石層下位から剥片、礫が数点出土した。

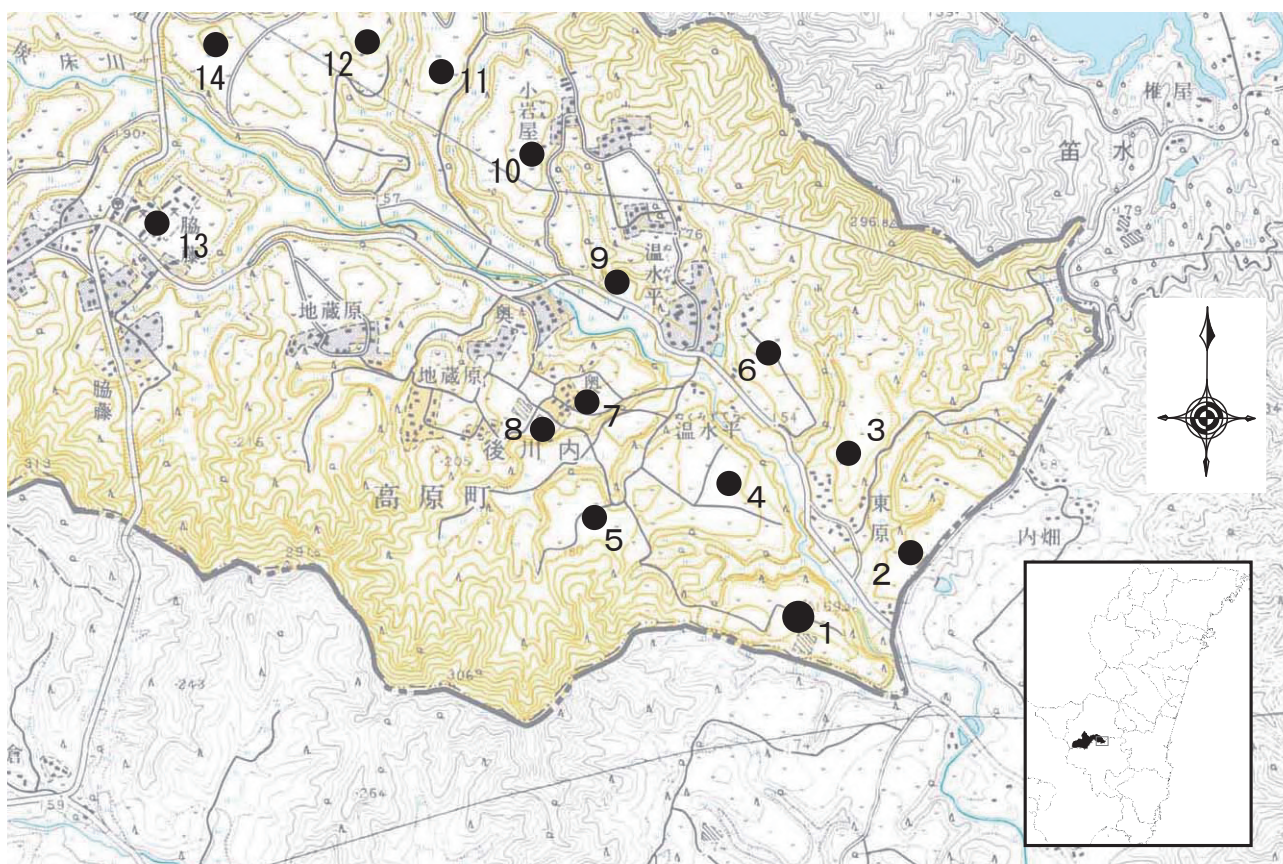
【縄文時代】

縄文時代早期の遺跡として、井ノ原遺跡、川路山遺跡、川除遺跡、楠木塚遺跡、目ノ崎第一遺跡がある。楠木塚遺跡では前平式の志風頭段階と思われる土器が出土した。井ノ原遺跡は平椀式、川路山遺跡では塞ノ神式、目ノ崎第一遺跡では岩本式、前平式等の土器が出土している。平成6～8年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った荒迫遺跡においても塞ノ神式土器の出土が確認されている。

縄文前期の遺跡としては、川路山遺跡、川除遺跡で曾畑式、轟B式土器が数点確認されている。また蒲牟田地区にある大谷遺跡の表採資料で同じく曾畑式土器が確認された。中期の遺跡は、井ノ原遺跡で、大平式土器が出土した。また宮崎県埋蔵文化財センターが調査した広原第一遺跡（旧高原畜産高校遺跡）や、町教育委員会で調査した梶粉山遺跡（旧狭野第四遺跡）では阿高式土器が出土している。後期に入ると、広原第一遺跡や大谷遺跡、佐土遺跡、梶粉山遺跡等で遺物が確認されている。梶粉山遺跡、大谷遺跡から出土した土器からは定住性の高さを物語るとされるカラスザンショウ種子の圧痕が確認された（小畑・宮浦 2020）。また広原第一遺跡では炭化アズキ種実の出土が確認された（吉本・泊・工藤 2018）。吉牟田遺跡では貝殻文系土器や磨消縄文系土器が出土し、台付皿形土器も多く確認された。晩期の遺跡は井ノ原遺跡第二地点があり、黒色磨研土器等が出土した。

【弥生時代】

立山遺跡や荒迫遺跡で弥生時代後期から古墳時代にかけて住居跡が確認されている。荒迫遺跡では弥生時代後期から古墳時代にかけての住居跡や掘立柱建物、土坑、溝などが検出されている。また立山遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭の住居跡が約 30 基検出されている。



1 土橋遺跡 2 吉牟田遺跡 3 東原遺跡 4 大久保第1遺跡 5 大久保第2遺跡 6 東平遺跡 7 奥城跡 8 温水第1遺跡
9 温水第2遺跡 10 楠木塚遺跡 11 赤木八重遺跡 12 井ノ原遺跡 13 川除遺跡 14 川路山遺跡

第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

【古墳時代】

高原町内では地下式横穴墓が現在までのところ4群118基検出されている。その内訳は湯之崎地下式横穴墓1基、旭台地下式横穴墓群13基、日守地下式横穴墓群32基、立切地下式横穴墓群72基であり、そのうち日守地下式横穴墓群の一部は町指定となっている。湯之崎地下式横穴墓群は昭和47年11月整地作業中に発見され、緊急調査が行われた。1基のみの検出だったが、4体の埋葬人骨と刀子、鉄鏃、鉈など11点の副葬品が確認された。旭台地下式横穴墓群では、昭和50年12月に土木作業中の崩落により発見、緊急調査された。9号墓では鉾、鉄釧が出土したほか、調査した中では約100点近い鉄製副葬品が出土した。埋葬位置から直線配置埋葬のA群、円形配置のB~D群に分類され、他群に比べてA群の優位性が指摘されている(中野1998)。また、調査以外にも地下式横穴墓が発見されたという話があり、実際はより広範囲になると推測される。日守地下式横穴墓群は、日守・仮屋尾地下式横穴墓群のうち、高原町側の地下式横穴墓群であり、隣の都城市高崎町大字前田字仮屋尾にも広がっている。高崎町側では、昭和44年の分布調査等によって9基発見されており、高原町側は昭和54・55年の採土作業により初めて発見された。発見された8基の中には、束柱のレリーフのほか、シラスを敷いた屍床や塗朱跡、天井部の彩色線文などが発見された。昭和56年の隣接地の確認調査では、10基の地下式横穴墓、土器溜まりなどが検出された。

立切地下式横穴墓群は、昭和63年12月に圃場整備中に発見されたことで発掘調査が行われ、72基の地下式横穴墓群が検出された。郡内には赤色顔料を使用して垂木や棟木を表現したものが多くみられた他、レリーフ状の束柱なども見られた。また埋葬人骨77体、刀剣や刀子の他、線刻の入った鉄鏃・鉈・鋤先・鉄斧等鉄製副葬品277点、琥珀製小玉や管玉・白玉・鉄釧・イモガイ製腕輪等装身具123点など、副葬品も豊富に出土した。なお、地下式横穴墓に伴わない土器溜まりが2箇所検出され、墓前祭の可能性が指摘されている。また、副葬品出土のセット関係から、埋葬はキョウダイ関係を基礎とした双系の血縁に基づく原理が少なくとも5世紀において継続していることが指摘されている(吉村2011)。

【歴史時代】

6世紀前半から9世紀にいたるまで、歴史的な資料は残されていない。9世紀にはいと、畝状遺構が荒迫遺跡、川除遺跡、大谷遺跡、榑粉山遺跡で検出されており、現在の町域の数か所で同時多発的に開墾が行われたと考えられる。このうち最も広範囲で検出されたのが荒迫遺跡であり、9世紀後半から10世紀にかけての遺跡と推測されている。栽培作物については少量ではあるが稲と、根菜類栽培の可能性が高いと推測されている。

荒迫遺跡、大鹿倉遺跡、榑粉山遺跡、宇津木遺跡などで中世の陥し穴が多数検出されている。

中世では現在の町域は島津荘のひとつの三俣院もしくは藤原頼通に寄進された真幸院に含まれていたと考えられる。当時の小林市と高原町の境界が不明確であるため、どちらに所属していたかは分かっていない。

16世紀にはいと、真幸院領主の北原氏、伊東氏、島津氏へと支配体制が変化していく。また高原は、日向国と大隅国の国府付近を結ぶ要衝であることから、現在の市街地にある高原城が戦いの舞台となった。16世紀半ばになって伊東氏の領地となったが、天正4年(1576)8月に、島津義久、義弘らが高原城を攻め落とし、高原は島津家の領地となり、以後も薩摩藩領として定着する。その後領内には地頭制が敷かれることとなった。

高原の領域は、地頭制施行当初は麓村、蒲牟田村、入木村、(以上、現高原町)、前田村、大牟田村、笛水村、江平村(以上、現都城市高崎町)と推定されるが、延宝8年(1680)に前田、大牟田、江平が高崎郷として独立し、紙屋郷水流村(現都城市)、小林郷広原村(現高原町)が編入し、この5村で幕末まで至る。

19世紀前半頃には高原郷そのものには地頭は派遣されず、周辺の数郷に地頭一人を配置する居地頭体制となった。当初は、小林、高原、加久藤、飯野、須木、野尻の6ヶ郷請持体制であったが、その後小林、高原、須木、野尻、高崎を合わせた5ヶ郷請持に再編成された。この請持体制がのちの西諸県郡の基礎に繋がるものと考えられる。

また高原郷は、南九州で著名な薩摩街道や肥後街道からは離れているが、鹿児島城下から綾郷（宮崎県東諸県郡綾町）に至るまでの綾往還が郷内を通過していた。鹿児島城下から国分・霧島を通過して小池・御池沿いを廻りながら東御在所両所権現社の参道に出るものであった。

明治時代に入り、明治 16 年（1883）に宮崎県が設置されると、同 6 月には北諸県郡、翌 17 年には西諸県郡に属した。その後、明治 22 年（1889）の町村制施行に伴い、麓・蒲牟田・広原・後川内の 4 村が合併して高原村が成立、昭和 9 年（1934）には町村制施行に伴って高原町となった。

【参考文献】

小畑弘己・宮浦舞衣 2020 「宮崎県域の縄文時代後期を中心とした土器圧痕調査」『人文科学論叢』第 1 号
熊本大学大学院人文社会科学部（人文系）

久木田浩子・和田理啓 1998 「荒迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 11 集 宮崎県埋蔵文化財センター

大學康宏 1999 「大谷遺跡表採縄文土器資料」『高原町文化財調査報告書』第 4 集 高原町教育委員会

大學康宏 1999 「川除遺跡」『高原町文化財調査報告書』第 5 集 高原町教育委員会

大學康宏 2000 「梶粉山遺跡」『高原町文化財調査報告書』第 6 集 高原町教育委員会

大學康宏 2003 「町内遺跡Ⅲ」『高原町文化財調査報告書』第 11 集 高原町教育委員会

大學康宏 2004 「宇津木遺跡」『高原町文化財調査報告書』第 12 集 高原町教育委員会

中野和浩 1998 「地下式横穴墓の群構造」『宮崎考古』第 16 号 宮崎考古学会

柳田裕三 2007 「吉牟田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 154 集 宮崎県埋蔵文化財センター

吉本正典・泊俊一郎・工藤雄一郎 2018 「宮崎県広原第 1 遺跡出土の縄文時代の炭化アズキ亜属種子」『九州考古学』第 93 号 九州考古学会

吉村和昭 2011 「宮崎県西諸県地域における地下式横穴墓の墓群形成と埋葬原理」『九州考古学』第 86 号
九州考古学会

第4節 調査の概要及び経過

土橋遺跡の調査は、令和2年6月2日から令和3年3月15日にかけて実施した。調査面積は5,166㎡である。調査区は2箇所に分かれていたため、1区と2区とし、調査を実施した。令和2年6月2日から6月23日にかけて高原スコリア層（Ⅲ層）までの表土剥ぎを行い、10月20日から11月12日にかけてアカホヤ火山灰（Ⅸ層）等の除去を行った。6月23日から発掘作業員を雇用し精査を開始した。まず1区のアカホヤ火山灰上位の調査を10月6日まで実施した。次の2区のアカホヤ火山灰上位の調査は10月7日から実施した。2区の10月27日に包含層の精査を終了し、1区のアカホヤ火山灰下位の調査を11月4日から3月にかけて実施した。11月26日から12月10日にかけて、2区のアカホヤ火山灰下位の調査を行った。10月13、14日、2月1日に小林軽石下位の文化層の確認を行った。随時遺構検出・調査を実施し、令和3年3月15日に全ての調査を終了した。調査の結果、アカホヤ火山灰上位層で土坑12基、その他遺構4基を検出した。

遺物は、土器は市来式、丸尾式、黒色磨研土器、土師器が中心に出土している。石器は石鏃、磨石等が出土した。

調査における写真撮影は、35mmモノクロ・リバーサルフィルム、NIKON D850で撮影を行った。

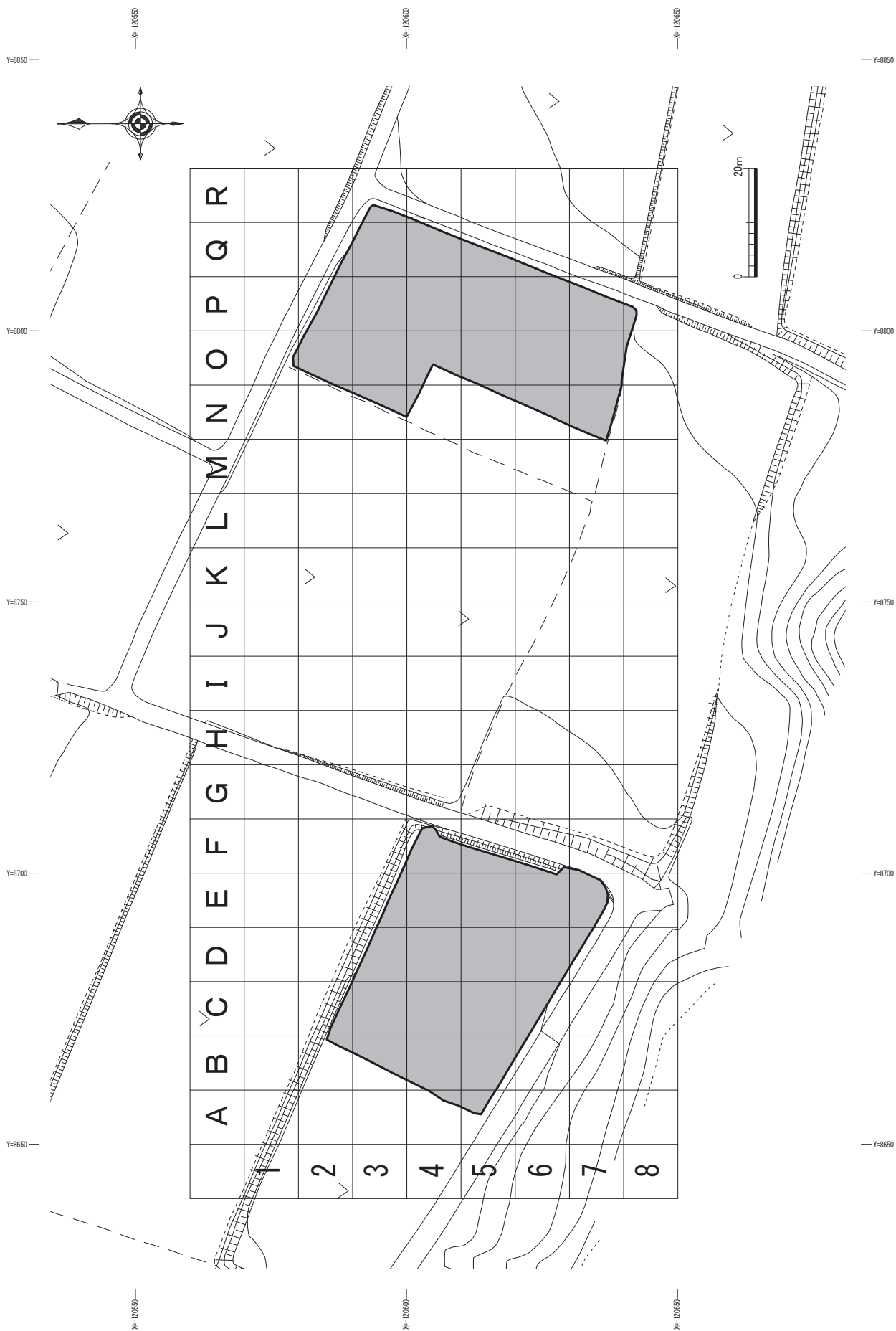
第5節 調査区設定

調査は、事業実施計画図面の切土範囲に照らし、1区と2区に分けて調査を実施した。調査前は平坦な畑地であったが、旧地形は1区は緩やかに南向きに傾斜し、2区は北向きの急傾斜地であった。

調査面は、上位から順に、1区・2区ともアカホヤ火山灰上位の褐色～黒色土（Ⅳ～Ⅵ層）、アカホヤ火山灰下位のぶい褐色土～暗褐色土（Ⅺ～ⅩⅣ層）である。遺構検出はⅦ層、ⅩⅣ層及びⅩⅤ層で実施した。



第2図 調査地位置図 (S=1/10,000)



第3図 グリッド配置図 (S=1/1000)

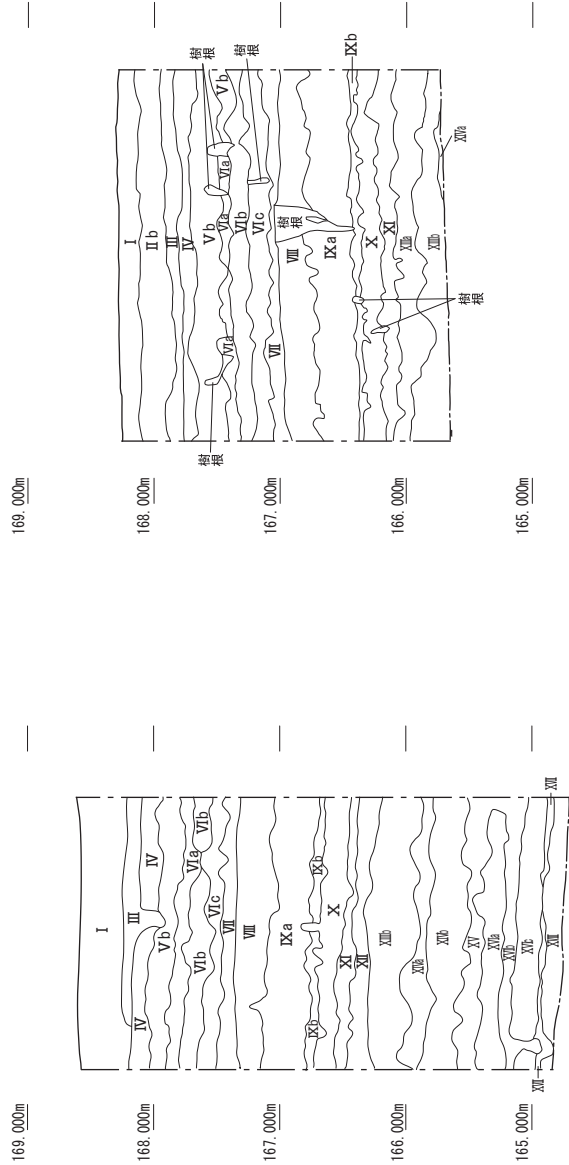
第6節 遺跡の層序

当遺跡では、観察地点によって土層の堆積に若干の差異が認められたため、層序を下記の通りとした。各観測地点の土層堆積については、第4図及び第5図の通りである。

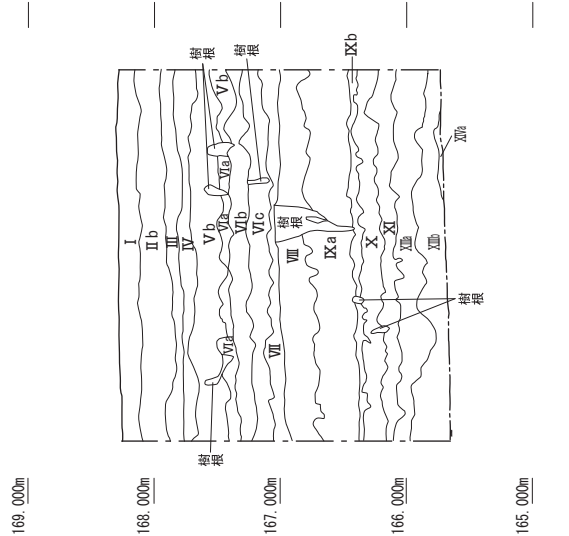
- I 黒褐色シルト質土（10YR3/2）5mm以下の砂粒を含む。
- IIa 明黄褐色シルト質土（2.5Y6/6）5mm以下の砂粒を含む。黄橙色土ブロックを含む。
- IIb 黒褐色シルト質土（10YR3/2）5mm以下の茶褐色スコリアを含む
- III にぶい黄褐色スコリア層（10YR5/4）15mm以下のスコリアを多量に含む。：高原スコリア
- IV 黒色シルト質土（10YR2/1）1mm以下の橙色軽石を微量含む。しまり弱い。
- Va 褐色土シルト質土（10YR4/6）3mm以下の橙色、黄橙色軽石を含む。しまりやや弱い。
- Vb 暗褐色シルト質土（10YR3/4）3mm以下の橙色、黄橙色軽石を含む。しまりやや弱い。黒褐色土をまだらに含む。
- VIa 黒色粘質土（10YR2/1）5mm以下の橙色、黄橙色軽石を含む。ややしまりあり。
- VIb 黒色粘質土（10YR2/1）5mm以下の橙色軽石微量、黄橙色軽石を多く含む。しまりあり。
- VIc 黒色粘質土（10YR2/1）5mm以下の橙色、黄橙色軽石を少量含む。しまりあり。ややシルト質寄り
- VII 黒褐色シルト質土（10YR2/2）3mm以下の橙色、黄橙色軽石を微量含む。しまりあり。
- VIII にぶい黄色シルト質土（2.5 Y 6/4）5mm以下の橙色軽石をごく微量含む。しまり強い。
：牛のスネ火山灰上部
- IXa 黄橙色シルト質土（10YR7/8）しまり強い。：アカホヤ火山灰
- IXb 黄橙色シルト質土（10YR7/8）しまり強い。8mm以下の黄橙色軽石を含む。：アカホヤ火山灰
- X 黄灰色シルト質土（2.5Y4/1）しまり強い。硬質。：牛のスネ火山灰下部
- XI 黒色シルト質土（10YR2/1）5mm以下の橙色軽石を多く含む。しまり強い。
- XII にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）4mm以下の黄橙色、橙色軽石を少量含む。しまりあり
- XIIa 黒褐色粘質土（10YR 3/2）8mm以下の橙色軽石を多く含む。しまり強い。
- XIIb 暗褐色粘質土（10YR3/3）5mm以下の橙色軽石を含む。しまり強い。
- XVa 褐色土シルト質土（10YR4/4）2mm以下の黄橙色軽石を微量含む。ややしまりあり。
- XVb 暗褐色シルト質土（10YR3/4）8mm以下の黄橙色軽石を微量含む。しまりあり。
- XV にぶい黄褐色シルト質土（10YR4/3）硬質な黒褐色土ブロック（橙色軽石、白色砂粒を含む）を含む。
- XVIa 褐色粘質土（10YR4/4）10mm以下の橙色軽石を含む。ややしまり強い。：小林軽石層
- XVIb にぶい黄色砂質土（2.5Y6/3）5mm以下の黄橙色軽石を含む。しまり弱い。：小林軽石層
- XVIc 黄橙色砂質土（10YR8/8）1~40mm以下の黄橙色軽石を多量に含む。しまり弱い。：小林軽石層
- XVII 灰黄褐色シルト質土（10YR4/2）5mm以下の黄橙色、黄褐色軽石を含む。かたくしまる。
- XVIIa にぶい黄褐色粘質土（10YR5/3）5mm以下の黄橙色、黄褐色軽石を少量含む。ややしまりあり。黒褐色土が網状に混じる
- XVIIb にぶい黄橙色粘質土（10YR7/4）5mm以下の橙色軽石をごく微量含む。しまり弱い。

本報告においては、アカホヤ火山灰（今回報告のIX層）の上位層と下位層で、遺構・遺物の様相が異なるため、それらの層ごとに報告を行う。また、なお、小林軽石層（今回報告のXVI層）から下位については、遺構・遺物が確認されなかったため、土層の記録のみ作成している。

1 区調査区中央南壁

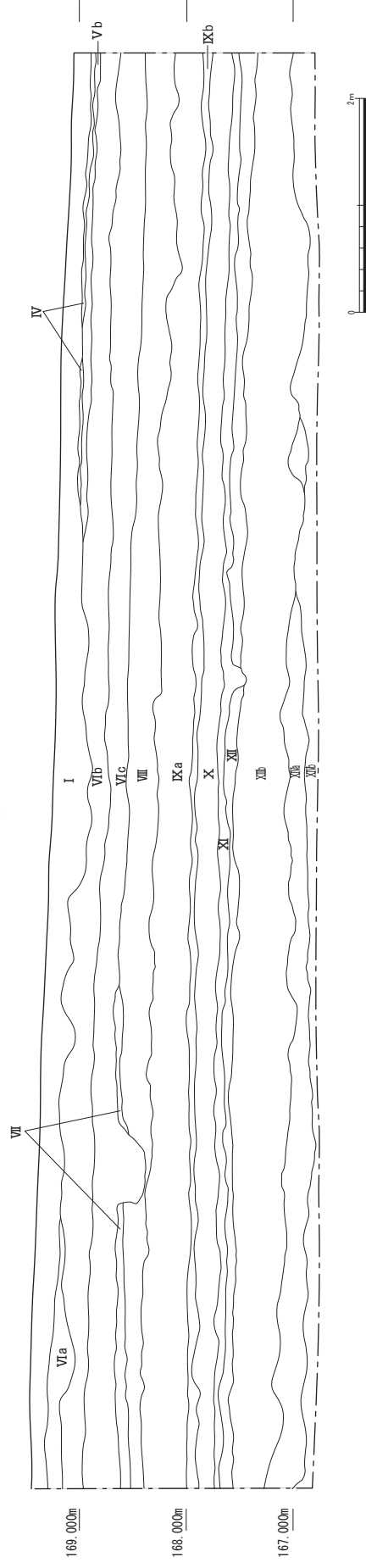


1 区調査区南西壁



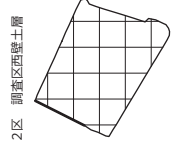
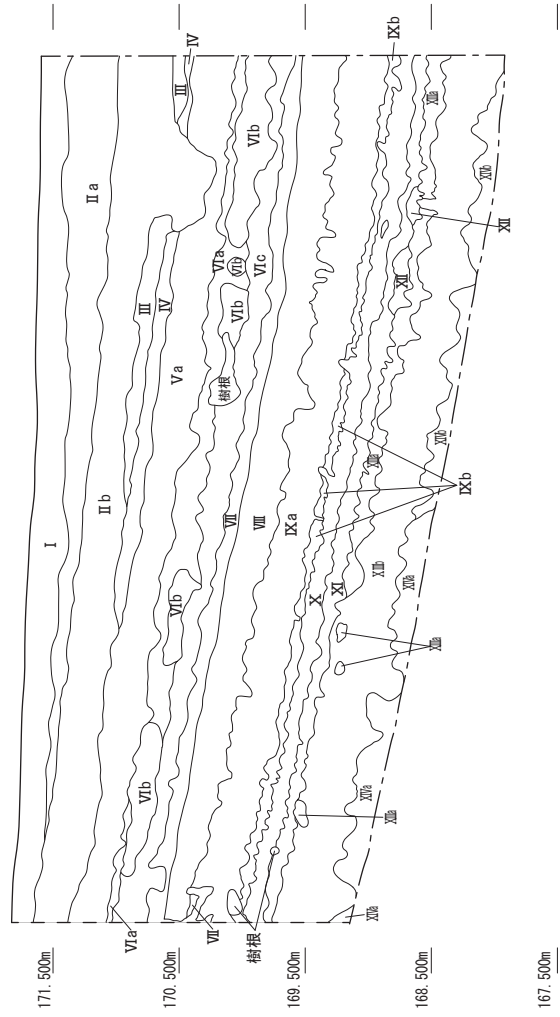
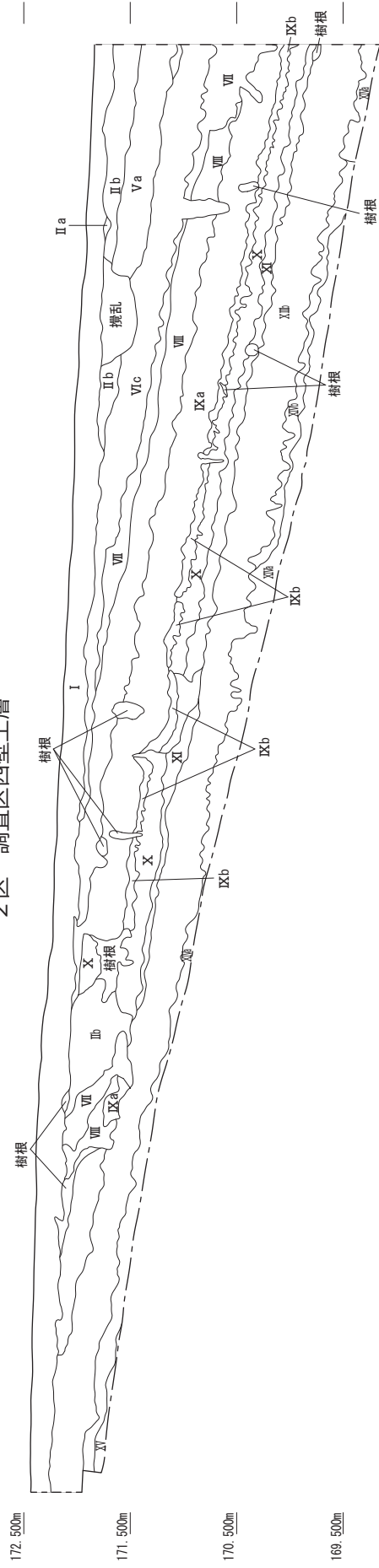
- I 黒褐色シルト質土 (10VR3/2) 5 mm以下の砂粒を含む。
IIa 明黄褐色シルト質土 (2.5Y6/6) 5 mm以下の砂粒を含む。
IIb 黄褐色シルト質土 (10VR3/2) 5 mm以下の茶褐色スコリアを含む。
III 黒褐色シルト質土 (10VR3/2) 5 mm以下の茶褐色スコリアを少量含む。
IV 黒色シルト質土 (10VR2/1) 1 mm以下の橙色軽石を微量含む。しまり弱い。
Va 褐色シルト質土 (10VR4/6) 3 mm以下の橙色、黄褐色軽石を含む。しまりやや弱い。
Vb 暗褐色シルト質土 (10VR3/4) 3 mm以下の橙色、黄褐色軽石を含む。しまりやや弱い。黒褐色土をまじらに含む。
VIa 黒色粘質土 (10VR2/1) 5 mm以下の橙色、黄褐色軽石を含む。しまりあり。
VIb 黒色粘質土 (10VR2/1) 5 mm以下の橙色、黄褐色軽石を少量含む。しまりあり。
VIc 黒色粘質土 (10VR2/1) 5 mm以下の橙色、黄褐色軽石を少量含む。しまりあり。
VII 黒褐色シルト質土 (10VR2/2) 3 mm以下の橙色、黄褐色軽石を微量含む。しまりあり。
VIII 黒褐色シルト質土 (2.5Y6/4) 5 mm以下の橙色軽石をごく微量含む。しまり強い。
IXa 黄褐色シルト質土 (10VR7/8) しまり強い。8 mm以下の黄褐色軽石を含む。
IXb 黄褐色シルト質土 (10VR7/8) しまり強い。8 mm以下の黄褐色軽石を含む。
X 黄褐色シルト質土 (2.5Y4/1) しまり強い。硬質土のスペアを含む。
XI 黒色シルト質土 (10VR2/1) 5 mm以下の橙色軽石を多く含む。しまり強い。
XIIa 黒色粘質土 (10VR5/4) 4 mm以下の黄褐色、橙色軽石を少量含む。しまりあり。
XIIb 黒褐色粘質土 (10VR3/2) 8 mm以下の橙色軽石を多く含む。しまり強い。
XIIc 暗褐色粘質土 (10VR3/3) 5 mm以下の橙色軽石を多く含む。しまり強い。
XIIa 暗褐色シルト質土 (10VR4/4) 2 mm以下の黄褐色軽石を微量含む。しまりあり。
XIIb 暗褐色シルト質土 (10VR3/4) 8 mm以下の黄褐色軽石を微量含む。しまりあり。
XIIc 暗褐色シルト質土 (10VR4/3) 硬質な黒褐色土ブロック (橙色軽石、白色砂粒を含む) を含む。
XIIb 褐色粘質土、白色砂粒 (10VR4/4) 10 mm以下の橙色軽石を含む。ややしまり強い。
XIIc 褐色粘質土、白色砂粒 (10VR4/4) 10 mm以下の橙色軽石を含む。しまり強い。
XIIa 黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。
XIIb 黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。
XIIc 黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。
XIIa 灰黄褐色シルト質土 (10VR4/2) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を含む。かたしきまる。
XIIb 灰黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を少量含む。かたしきまる。
XIIc 灰黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を少量含む。かたしきまる。
XIIa 灰黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を少量含む。かたしきまる。
XIIb 灰黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を少量含む。かたしきまる。
XIIc 灰黄褐色粘質土 (10VR5/3) 5 mm以下の黄褐色、黄褐色軽石を少量含む。かたしきまる。

1 区調査区東壁



第 4 図 調査区土層断面図①(S=1/60)

2区 調査区西壁土層



1区調査区中央南壁
1区調査区西壁
1区調査区東壁

2区 調査区西壁土層

第5図 調査区土層断面図② (S=1/60)